

連携協議会の取組状況

令和7年2月21日
北海道サイクルルート連携協議会アドバイザリー会議

1) 北海道におけるサイクルツーリズムの取組経緯

○北海道における取組

- 平成28年3月 北海道総合開発計画（8期計画）閣議決定 →北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業と位置づけ
- 平成29～30年 「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」設置（事務局：北海道、北海道開発局）
→5つのモデルルートにおける試行
- 平成31年3月 北海道自転車利活用推進計画が策定
- 令和元年8月 北海道サイクルルート連携協議会を設立（ルート協議会募集開始）
→8つのモデルルートにて取組を推進（北海道のサイクルツーリズムの取組を本格展開）
- 令和3年3月 第2期北海道自転車利活用推進計画が策定
- 令和3年5月31日 トカプチ400がナショナルサイクルルートに指定
- 令和6年3月 第9期北海道総合開発計画を閣議決定 →北海道のポテンシャルを活かし、「食料安全保障」「観光立国」「ゼロカーボン北海道」を先導

○全国的な取組

- 平成28年12月 自転車活用推進法が議員立法で成立（平成29年5月施行）
→「自転車の活用による環境負荷の低減、災害時の交通機能維持、国民の健康増進等を図ることが重要な課題」と明記
- 平成30年6月 国の自転車活用推進計画が閣議決定
→「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」が目標に掲げられる
- 令和3年5月 第2次自転車活用推進計画が閣議決定
- 令和5年7月 新たな国土形成計画（全国計画）が閣議決定
→同10月 国土幹線道路部会中間取りまとめ（WISENET2050公表）
- 令和6年6月 安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインの改定

「他で代替できない北海道の価値」を最大化し、現下の国の課題解決を先導

食料安全保障

全国約24%の食料生産（カロリーベース）

生産量全国一の農畜産物・水産物
小麦、ばれいしょ、たまねぎ、生乳等
ホタテ、タラ、サケ・マス、ホッケ等

観光立国の再興

感染症拡大前の直近5年間で
来道外国人旅行者数 164万人増
（平成26年137万人⇒令和元年301万人）
都道府県魅力度 15年連続全国一

2050カーボンニュートラル

全国一の再生可能エネルギー賦存量

洋上風力、陸上風力、太陽光、
森林吸収、バイオマス、
ブルーカーボン、中小水力

北海道のポテンシャルを活かし、我が国の豊かな暮らしを支える

～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～

主要施策

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
4. 地域の強みを活かした成長産業の形成
5. 自然共生社会・循環型社会の形成
6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
7. アイヌ文化の振興等

《主要施策の実現に向けた施策の基本的方向》

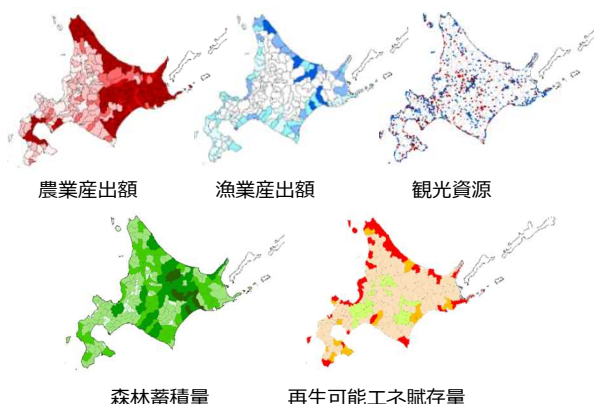
(1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上

〈重点的に取り組む施策〉

○観光消費額・観光消費額単価の向上に資する高付加価値な観光の推進
・世界水準のサイクルツーリズム等による高付加価値旅行者の誘客

「北海道の価値」を生み出す「生産空間」の定住環境を維持

北海道の価値を生む「生産空間」の分布



北海道の生産空間の構造的課題【定住環境の厳しさ＝二重の疎】



+ 積雪寒冷の厳しい気候、千島海溝地震の切迫

北海道の価値を生み出す北海道型地域構造の維持 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～

主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

教育委員会との連携
「ほっかいどう学」の展開

千島海溝地震による津波避難対策特別強化地域(39市町)

避難施設の計画・建設

生産空間：主として農業・漁業に係る生産の場（特に市街地ではない領域）を指す。
生産空間は、生産のみならず、観光その他の多面的・公益的機能を提供している。

4) 北海道におけるサイクルツーリズムの取り組み



【ルート協議会のサイクルルート】

10のルート

ナショナルサイクルルート
(NCR)



〔連携協議会〕

北海道商工会議所連合会、北海道観光機構、シーニックバイウェイ支援センター、北海道運輸局、北海道、北海道開発局により構成

〔ルート協議会〕

質の高いサイクルツーリズムを提供する団体。市町村、総合振興局・振興局、開発建設部、民間事業者団体（観光協会、商工会議所等）、自転車関連団体等により構成

4) 北海道におけるサイクルツーリズムの取り組み

R6年度 現地視察の概要：トカプチ400 現地走行会および意見交換会

■令和6年9月19日（木）～20（金）

＜現地走行会（19日）＞

北海道のサイクルツーリズム環境の全体的な底上げを図るため、ルートの課題や工夫すべき点、参考になる点等を確認する現地視察を実施

＜意見交換会（20日）＞

トカプチ400の活動概要発表および意見交換（良い点、改善点）、各ルート協議会の取組状況について意見交換

開催日：2024年9月19日



4) 北海道におけるサイクルツーリズムの取り組み

R6年度 現地視察実施時の意見交換会における指摘事項についての対応状況（抜粋）

【走行環境】

<ご意見>

アイキャッチの視点で案内看板の設置位置を見直してほしい。

<対応状況>

サイクリスト目線での案内サインの設置高さの改善を検討。

現在は、道路標識設置基準・同解説を参考に舗装面から案内サインの下面までの高さは180cmを標準としているが、建築限界を考慮しつつ、より低い高さに案内サインを設置できる手法がないか、他ルートの整備事例も参考に検討を進める。



設置事例(左:若狭湾サイクリングルート、右:ビワイチ)

【受入環境】

<ご意見>

とかち帯広空港とルート間の案内表示や空港内での案内についてもう少し工夫できるとよい。

<対応状況>

とかち帯広空港においてサイクルシーズンに向けて案内設置の調整を開始。現在も案内の記載はあるが、よりわかりやすく掲載する方向で調整中。



とかち帯広空港の案内

【情報発信】

<ご意見>

各ルートのゲートウェイに、10ルートを紹介したポスターを貼ってほしい。

<対応状況>

現在は、各ルートの一部施設で設置済み。未設置のゲートウェイについては、次のサイクルシーズンに向けて北海道内での回遊性を高めるため、ポスター設置を調整中。



ポスター掲示の例
(左:JR旭川駅、右:道の駅るもい)

5) 北海道サイクルルート連携協議会の取組

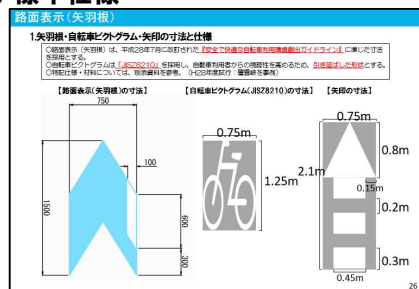
走行環境に関する主な取り組み

継続

案内看板・路面表示（矢羽根）仕様基準を運用した走行環境整備（北海道開発局・北海道）

基幹ルートの案内サイン、路面表示矢羽根の標準仕様、地域ルートの案内サインの標準仕様を作成し各ルートで運用し走行環境を整備。

▼標準仕様



▼整備状況



矢羽根



案内看板（左：基幹ルート・地域ルート重複区間、右：地域ルート）



自転車走行環境改善のための路肩の拡幅（北海道開発局）

路肩の狭い国道において、路肩を拡幅し自転車が走りやすい環境を整備。

▼整備状況（羊蹄ニセコエリアサイクルルート）

継続



整備前

路肩
拡幅



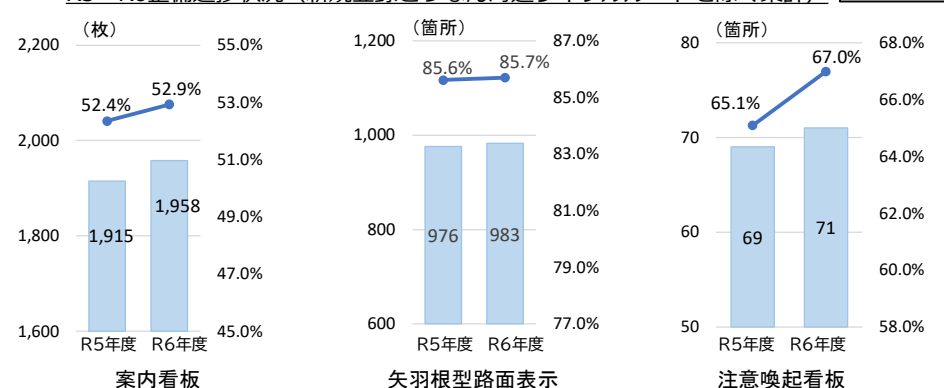
整備後

走行環境整備状況の進捗整理（北海道開発局）

継続

各ルートの整備進捗状況をアクションプランにて管理。整備進捗率をとりまとめ。引き続き実施。

R5→R6整備進捗状況（新規登録どうなん海道サイクルルートを除く集計）



道路排水柵部の改善検討（北海道開発局）

新規

令和6年度は知見の蓄積を目的にオロロンライン・サイクルルート、石狩北部・増毛サイクルルートをフィールドとして試行。即効性・有効性が確認できたため、今後、段差改善対策の一つのツールとして道路設計要領等に位置付けることを検討。

■切削オーバーレイによる設置状況



■業者による作業性の確認



■被験者による走行調査



女性、40代、サイクル10年、シティバイク

5) 北海道サイクルルート連携協議会の取組

受入環境に関する主な取り組み

サイクリスト応援カー（北海道開発局）

国道や国が管理する河川を巡行するパトロールカーへ空気入れおよび工具を搭載しサイクリストを支援。本年度から全10ルートに取組を拡大。今後も継続予定。

▼サイクリスト応援カー（阿寒・摩周・釧路湿原ルートでの実施例）



継続

鉄道やバス等の公共交通機関への自転車の持ち込み（北海道）

継続

R6年度はH100形車両によるサイクルトレインモニターツアーの実施（JR釧網線）。サイクルトレインの実用化に向け検討を継続予定。

▼モニターツアーの様子



積み込み状況（ロングシート固定方式）



積み込み状況（平置き固定方式）

主催：[R4]JR釧網本線維持活性化実行委員会（事務局：釧路市）
[R5～]北海道釧路総合振興局

サイクリング周遊拠点の整備・レンタサイクル事業の実施（SBW支援センター）

継続

札幌駅北口でゲストハウス「Ten to Ten」と連携して、石狩川流域圏ルートを対象とした拠点整備を実施。本年度は、ガイドサイクリングの実施（北広島ツアー等）や自転車の貸し出しを継続。（石狩散走、石狩川流域圏ルート走行会等）



▲関東から来たお客さまをガイドサイクリングで案内（緑の回廊エルフィンロードと北広島マンモスを楽しむコース）

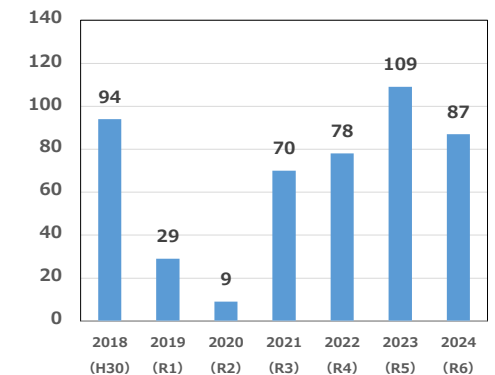


▲藤女子大学の学生が石狩散走の試走のため石狩港周辺を走行する際に自転車を貸し出し

折畳み小径車や電動アシスト自転車、ロードバイク、マウンテンバイクなどのレンタサイクル事業を継続。今年度は、ルートでの走行会等で計87台を貸出。今後も継続予定。



支援センターが貸し出したレンタサイクル
利用数（H30～R6年度）



5) 北海道サイクルルート連携協議会の取組

情報発信に関する主な取り組み

継続

WEBサイト等での情報発信【サイクルルート北海道HP更新作業継続】（SBW支援センター）

サイクルルート北海道において、各ルートの情報提供を実施（2ルート新規追加）。サイクルルート北海道でサイクルルート北海道フォトコンテスト2024の情報提供を実施。また、さっぽろサイクルラボでガイドサイクリングの情報提供。今後も継続予定。

▼サイクルルート北海道HP



▼さっぽろサイクルラボ(ピクニックライド)HP



WEBサイト等での情報発信（北海道運輸局）

継続

昨年度は、北見エリアおよび室蘭市において、観光庁の補助金事業を活用してサイクリングコンテンツ造成および商品紹介用HPの多言語化を実施。七飯大沼エリアでは、造成したコンテンツをアプリから閲覧できるようにし、地域のポータルサイトと連動させる取組を実施。今年度は観光庁の「地域観光新発見事業」にて造成された各サイクリングツアーを、事業実施主体や連携組織のサイトに掲載。来年度も同様の取組を継続予定（コンテンツ造成については後述）。

継続

WEBサイト等での情報発信【自転車活用等促進事業の一環】（北海道）

Instagram「もっと、自転車北海道。」を中心に、定期的な情報発信（全道の自転車イベント、レンタサイクル紹介、交通安全など）。イベントでの情報発信や、インフルエンサー（自転車系YouTuber）活用による北海道の自転車環境PR。今後も継続予定。

▼Instagram「もっと、自転車北海道。」



▼インフルエンサー けんたさん



◀ツアー掲載HPの例

5) 北海道サイクルルート連携協議会の取組

情報発信（海外プロモーション）に関する主な取り組み

サイクリングツアー造成・メディア招へい・ATWS参加・販売（北海道観光機構・北海道）

継続

ATWS2023（北海道）公式エクスカーションの催行支援、ATツアー造成・メディア招へい・ATWS参加・販売を過年度から実施。
R6年度は2エリア【利尻島、糠平湖】でサイクリングツアー造成（10本）、海外メディア・インフルエンサー招へい（4名）、ATWS2024パナマにてヒアリング（磨き上げ）、OTA販売の実施。引き続きガイドツアーのさらなる商品造成や海外プロモーションを継続予定。

▼サイクリングツアー催行・ATWS商談会の様子



利尻島サイクリング



利尻島サイクリング



糠平湖サイクリング



ATWSパナマ

※特別な体験の提供等によるインバウンド消費の拡大・質向上推進事業（観光庁事業）
※欧米豪FIT旅客誘客・受入事業

継続

海外プロモーションなどによる誘致（SBW支援センター）

FLCA台湾楽活（ロハス）自転車協会 副理事長 林恵忠 氏及び久華旅行 日本旅行業務経理 曾建州氏をきた北海道ルートと連携、招へいし、サイクルルートの試走を行うとともに、台湾からの自転車旅行者受け入れに向けた意見交換を実施。
今後は、台湾のサイクルツーリズムについて現地視察を行うとともに、具体的な受入に向けたプロモーション等を展開する。

▼意見交換・試走調査の様子：きた北海道ルートの視察を行うとともに、関係者との意見交換を行った。



5) 北海道サイクルルート連携協議会の取組

関係機関との連携

シーニックバイウェイルートとの連携 (SBW支援センター)

継続

モニターツアーやツアーメニューの磨き上げ、サイクルツーリズムの普及に向けた講演、シンポジウム「きた北海道のサイクルツーリズム」の開催や「TEPPEN-RIDE2024」など、各シーニックルートと連携した取り組みを実施。次年度以降も引き続き継続検討予定。

▼モニター調査の様子



▼セミナーの様子



▼TEPPEN-RIDE2024の様子



セコマグループとの連携した取組（北海道開発局）

継続

R6年度はセイコーマート166店舗にサイクルラックを設置。一部店舗へはサイクルマップや工具を設置。今後も継続予定。

▼設置されたサイクルラック



企業との連携（SBW支援センター）

継続

(株)シマノ主催の、大学生を対象とした第7回「ソーシャル×散走」企画コンテストにおいて、北海道内大学への参加案内と企画立案をサポート。全国から26チームが参加。次年度も継続して実施予定。

▼「ソーシャル×散走」企画コンテストの発表資料



▲北海道科学大学「みつけに行こうよ
～放課後スポッポ発見隊～」



▲藤女子大学「再生可能エネルギー×散走
～再生可能エネルギーについて学ぼう～
in 石狩湾新港」

地域観光団体との連携（北海道観光機構・北海道）

継続

地域が主体となり行うモニターツアー開催やイベント実施等の取組に向けた支援を実施。地域が主体となるATツアー商品造成やガイド人材育成等のAT受入体制整備に向けた支援を実施。今後も継続して実施予定。

▼イベント開催の様子



※伴走支援型観光地域力強化推進事業、広域観光周遊促進事業、ATハンズオン支援事業、地域間プラットフォーム構築に向けたAT受入体制整備事業

6) サイクルルートにおけるサイクルツーリズム環境向上に向けた取組

その他の取り組み（交通量計測・補助金の活用）

継続

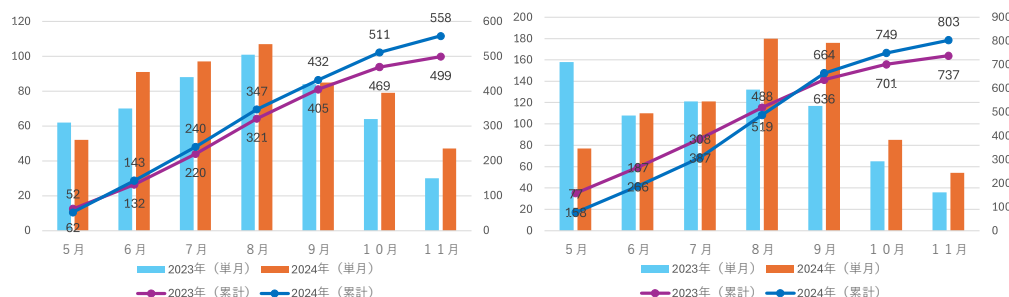
エコカウンターによる交通量の計測（北海道開発局）

国内外で行われているサイクリング利用者数の把握手法を収集・比較検討し、利用者数を把握する手法の確立を目指すことを目的として、トカプチ400では、道路に埋め込んだコイルセンサーにより、その上を通過する自転車交通量をカウントを実施。



常時観測の状況については、最新2カ年のうち北海道のサイクリングシーズンである5月～11月の期間について、自転車交通量は大樹町方向で延べ737台（2023年）803台（2024年）、帯広市方向で同499台、558台でいずれも前年比1割増となっている。

月別の利用状況では2カ年ともに8月がピークとなっている。今後も継続的に計測を実施予定。



2023年と2024年の月別サイクリスト数の推移
（右：帯広市方向、左：大樹町方向）
※単位：台

新規

ベンチマーク計測のための調査検討（北海道開発局）

例として、既存施設におけるサイクリスト来訪人数の調査や、公共交通への自転車持ち込み（輪行）人数など、自転車交通量のほかに把握することが可能な数値データの検討を実施予定。

＜調査検討を行う数値の例＞

- ・宿泊施設における自転車預かり・保管数
- ・航空機における自転車持ち込み（輪行）実績

継続

補助金の活用によるコンテンツ造成（北海道運輸局）

過年度より観光庁の補助金事業を活用し、各地域にてサイクリングツアーを造成。今年度も「地域観光新発見事業」を活用し、以下のサイクリングツアーを造成。来年度も同様の取組を継続予定。

＜今年度のコンテンツ造成＞

- ・ **北見エリア**：ワッカ原生花園（冬期は閉園）において、夏期はサロマ湖での「夕焼けSUP」を組み合わせたサイクリング、冬期は参加者限定でワッカ原生花園を開放し、季節限定の絶景の中で行う「雪と氷のスノーサイクリング」
- ・ **千歳・支笏湖エリア**：支笏湖周辺での清掃等の美化活動を組み合わせたファットバイク林道サイクリング、千歳発Eバイクサイクリング
- ・ **知床・根室エリア**：一次産業従事者（漁師・牧場経営者）との交流や、該当する産業の食材を使用した食事を取り入れたサイクリング



ワッカ原生花園でのサイクリングの様子